

文化活動団体、ボランティア、NPO等に対するアンケート調査

I 調査対象

対象団体：125団体 回答団体：62団体 回収率：49.6%

【内訳】		
<文化活動者>		
地域団体（県芸術文化協会加盟団体）	36	団体
市町村文化協会（市町村芸術文化団体）	26	団体
<文化活動支援者>		
NPO法人	22	団体
ボランティア（芸術文化関係）	6	団体
"（公文協関係）	14	団体
"（県博協関係）	15	団体
各種団体（婦人会等）	6	団体

II 調査結果

1 日常的な活動の場所や発表の場所についての要望（回答数47団体）

（多かった意見）

- ・施設使用料の低減や無料化（23）
- ・会場の大きさや音響設備、駐車場など施設・設備に関する要望（14）

（その他の意見）

- ・施設までの公共交通の利便性の向上
- ・富山県美術館やガラス美術館など公的施設の利用
- ・保育所や学校、福祉施設などでの発表機会の創出
- ・市町村間での施設利用に対する温度差の解消
- ・施設職員とボランティアが同じ目的意識を持って活動を継続できる環境づくり
- ・公演に対する支援
- ・ホームページでの情報発信
- ・新たな施設の開設により以前より充実している
- ・安価に借りられる場所があり、恵まれている

2 文化活動に関する情報の収集・発信方法（現状）（回答数57団体）

（収集）

- ・文化施設や市町村発行の広報誌、芸術文化団体発行の会報誌、インターネット（ホームページ、メール、SNS等）、DM、マスコミ、他団体、口コミ、専門誌 等

（発信）

- ・ポスター、チラシ、芸術文化団体発行の会報誌、マスコミ、インターネット（ホームページ、メール、SNS等）、他団体、口コミ 等

3 文化活動に関する情報の収集・発信方法（今後の希望）（回答数18団体）

（多かった意見）

- ・インターネット（ホームページ、メール、SNS等）（10）

(その他の意見)

- ・ポスター、チラシ
- ・マスコミ
- ・英語等での発信
- ・県外地域との交流
- ・公立施設での公演等に関する月間情報誌があるとよい
- ・県内各市町村の芸術文化活動のネットワークが構築されるとよい
- ・行政による情報発信をしてほしい
- ・文化的催し物専門のホームページができるとよい

4 団体の文化活動の向上に必要なこと (回答数60団体)

(多かった意見)

- ・会員(若い世代)の増加、後継者・次代の担い手の確保・育成(26)
- ・公的支援の拡大(13)
- ・会員の技術・資質の向上(9)
- ・支援者や理解者、協力者の増加(7)
- ・指導者やリーダーの確保・育成(6)
- ・他地域や他分野、他団体との交流(5)

(その他の意見)

- ・学校教育での文化活動の充実、学校の理解
- ・発表の場の確保
- ・会員相互の交流
- ・従業員の文化活動に対する企業の理解
- ・全国大会の継続的な開催
- ・情報発信の強化
- ・スタッフが専従で働ける環境

5 美術館・博物館や文化ホールなどの文化施設への要望、活性化策

(回答数47団体)

(多かった意見)

- ・企画・展示内容の充実や自主公演制作など、ソフト面での充実(10)
- ・市民参加型企画の実施やバリアフリー化など、誰もが気軽に立ち寄れる雰囲気づくり・工夫(6)
- ・美術館での朗読会や華展、舞台公演、コンサートなど施設の弾力的な利用(5)

(その他の意見)

- ・県民への幅広い広報、戦略的な広報活動、首都圏へのPR
- ・設備や備品等の充実
- ・施設利用料の低減や無料化
- ・子ども時代から親しまれるような工夫
- ・公共交通の利便性の向上などアクセス面での改善
- ・職員の技術・資質向上
- ・市内での文化ホール、美術館の整備
- ・予算や人員など組織体制の充実

- ・利用者の意見を聞く場の設置、利用者の意見の反映
- ・練習の場としての使用
- ・ボランティアの活用
- ・観光や福祉など幅広い観点での活用
- ・自団体と施設が連携した事業の実施
- ・集客が見込めるイベントの開催やカフェスペースの併設で人が集まる工夫
- ・富山県民の入場料を下げる
- ・文化施設スタンプラリー
- ・郷土の作家の作品展の開催など身近な文化による活性化を図るべき
- ・アールブリュットの美術館の整備
- ・公演に適した大きさの文化ホールの整備
- ・予約手続きの簡略化
- ・ふるさと教育の場としての活用
- ・団体鑑賞に対するバス代補助

6 次代の豊かな文化の担い手の育成に団体が果たせる貢献、役割と障害

①貢献、役割（回答数54団体）

（多かった意見）

- ・学校への出前公演や学校での指導など、学校教育との連携（10）
- ・ワークショップや体験教室など、年少者に関心を持たせる催し（9）
- ・大会やコンクール等の実施など、出演の場の提供（8）

（その他の意見）

- ・ボランティア活動などによる文化活動の支援
- ・広報誌等での活動紹介、普及
- ・教室の開講、講習会の開催
- ・公民館活動などへの指導者の派遣
- ・鑑賞機会の充実
- ・若者等への働きかけ、勧誘
- ・芸術文化に関する少年団の結成
- ・良き指導者の発掘
- ・高校生等との協働による美術館盛り上げプロジェクト
- ・公演の実施

②障害（回答数37団体）

（多かった意見）

- ・出前公演や校内での指導、校外活動などに対する学校の理解・協力体制（13）
- ・会場費や謝金、交通費など、経済的な負担（11）
- ・会員や指導者等の高齢化による後継者不足、指導者不足等（10）

（その他の意見）

- ・少子化
- ・交通手段の充実
- ・時間
- ・安全面

- ・練習するための施設の不足
- ・自分達の活動を理解してもらうこと
- ・行政の支援後退
- ・他との連携がしにくいこと
- ・仕事との両立
- ・スタッフ不足

7 富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なこと

(回答数 57 団体)

(多かった意見)

- ・メディアの活用やホームページなどによる情報発信の強化 (17)
- ・県民が「富山の文化」に関心を持ち、その良さに気づき、誇りを持つ (11)
- ・県外団体等との交流、連携 (7)
- ・富山固有の文化の保存、収集、発掘、ブラッシュアップ、発信 (5)
- ・発表の場の充実 (5)

(その他の意見)

- ・アンテナショップの活用など、首都圏での情報発信
- ・知名度のある方や強いリーダーに発信者になってもらう
- ・富山の芸術文化を広く盛り込んだホームページの開設
- ・メディア等に提供する文化資源の収集発信システムをつくる
- ・積極的な県外行事への参加・出展
- ・会報誌等の幅広い配布
- ・記念碑等の整備、解説看板の設置
- ・小さな事象も確実に発信して見てもらう姿勢
- ・国外で評価されるコンテンツのPRによる海外からの評価の逆輸入
- ・富山の景観と人情を前面に出し、素朴さを売りにする
- ・どの年代に対して、どの地域に対して発信するのかを決めること
- ・PR力が不足している
- ・文化があって観光があるので観光より文化に予算をかける
- ・ツアーの企画、ツアーに組み込む、旅行会社にアピール
- ・県外など多様な人のアドバイスを聞き、意見を取り入れる
- ・県内外に情報発信できる企画
- ・他県にはない「No. 1」をつくる
- ・技術や資質の向上、魅力的な作品の創造
- ・文化施設の整備や文化事業への助成など、文化団体が活動しやすい環境づくり
- ・郷土を題材にした映画・音楽等の全国への発信
- ・公的機関の主催、共催による発表会、コンクール (権威づけ)
- ・文化施設の組織体制強化による展示等の充実
- ・富山市以外の県内市町村での地方展の開催
- ・発信の拠点となる総合的な文化施設の整備
- ・毎年決まったイベントを開催し定着させることによる富山のイメージ化
- ・「富山に行けば〇〇できる」という雰囲気づくり
- ・国宝への昇格

- ・映画やドラマの舞台になるなど、話題となる企画の誘致を図るPR活動
- ・災害の少ない県、住みよい県として人が集まれることの活用

8 国内外に誇ることでできる文化の「宝もの」を自ら評価して、地域づくりに活かすために必要なこと（回答数50団体）

（多かった意見）

- ・外部の視点も活用した地域住民による「宝もの」の再発見・再認識（14）
- ・地道な活動の継続などによる「宝もの」の保存や担い手の育成、継承（13）
- ・インターネットや国内外との交流、県民への普及などのPR活動（9）

（その他の意見）

- ・コミュニティ構築や当事者以外の参加など、地域住民のつながり強化
- ・実演や参加体験できるイベントなど、多くの人に実体験してもらう工夫
- ・「宝もの」を見せる（魅せる）拠点づくりなど、人が集まる環境・条件整備
- ・先人の作った「宝もの」の磨き上げ
- ・「宝もの」の認定や地域指定、客観的指標による評価
- ・文化に身近に親しめる環境づくり
- ・文化・産業・生活・環境などをつないだ新たな発想・施策
- ・「よさこい」のように、伝統文化を活かして若者がワクワクするような企画
- ・子どもの頃から日常的に伝統文化の継承に関わること
- ・数ヶ国語の外国語で「宝もの」を紹介できること
- ・外国語の堪能なボランティアの養成
- ・「宝もの」を作り、守っている「人」に焦点を当てること
- ・県や国の助成
- ・ふるさと教育の充実
- ・歴女のような「〇〇女子」や「〇〇ガール」を育成

9 そのほか、団体の活動や文化振興についての課題（回答数47団体）

（多かった意見）

- ・会員の確保、後継者の育成（25）
- ・文化活動に対する学校や家庭、会社、地域の理解（5）

（その他の意見）

- ・指導者の育成
- ・積極的な県内団体の起用など、発表の場の確保
- ・行政等による支援
- ・県民への周知

文化行政施策に対する市町村アンケート

対象市町村 15市町村
回答市町村 15市町村
調査年月 平成28年8月

<主な回答>

1 市町村における文化施設の課題

- ・施設の老朽化への対応（修繕・維持補修、新たな施設の整備等）（10）
- ・稼働率の向上や利用者数・利用収入の増加に向けた対策（5）
- ・バリアフリー化に対応した施設整備
- ・文化施設の建設についての検討
- ・収蔵品増加への対応方法
- ・魅力ある催事の提供
- ・市民の自発的な芸術文化活動を支える場として、運営の工夫や発表機会の充実、新たな利用者の掘り起こし
- ・次代を担う子どもたちが芸術文化に親しむ場を提供できるよう、ホール事業や企画展等を充実させ参加を促す働きかけ
- ・専門的知識を有する専任スタッフの確保
- ・施設の独自性を打ち出しながら、市内外の施設との連携・ネットワークの強化
- ・市町村を越えた周辺施設との連携

2 地域文化活動の拠点としての文化施設の今後のあり方

- ・住民が利用しやすく親しみやすい施設（8）
- ・住民の自主的・自発的な文化活動の場としての機能強化（4）
- ・利用者のニーズに合った施設運営（2）
- ・質の高い芸術文化の鑑賞機会の提供（2）
- ・文化活動だけでなく交流施設として老若男女が集える施設づくり
- ・あらゆる市民が文化に触れ親しむ機会を保障する「社会包摂機能」を備えるとともに、地域コミュニティを支え、文化芸術活動を総合的にプロデュースできる人材を育み、市のアイデンティティを市内外に発信する役割を担っていく
- ・文化の継承・育成及び地域づくり・コミュニティを深める場としての機能

3-1 地域の文化振興施策を総合的、効果的に進めるための市町村の役割

- ・住民や民間団体、文化の担い手等の自主的・自発的な文化活動のサポート（6）
- ・地域の文化の保存や継承（4）
- ・発表の場の提供（2）
- ・地域の文化活動の積極的な発表・発信
- ・文化の価値に関する啓発活動
- ・子どもたちの文化活動の充実
- ・優れた作品に触れる鑑賞機会の提供
- ・専門的人材や財源の確保
- ・ボランティアの育成

3-2 県に期待する役割

- ・市町村に対する支援や助言（3）
- ・市町村間など広域的な連携の推進（2）
- ・専門的知識を有する人材の確保や派遣（2）
- ・地域の文化活動の県外や海外への発信
- ・大規模で質の高い文化事業の実施や文化団体等が実施する事業への助成
- ・子どもたちが文化に直接触れられる機会の充実
- ・民間団体でも簡素な手続で活用できる助成制度の創設

4 次代の豊かな文化を築く担い手として子どもを育成するために必要なこと

- ・質の高い芸術文化に触れ、体験する機会の提供・拡充（13）
- ・教育普及活動や意識啓発など、芸術文化に対する価値観の育成（3）
- ・ふるさと教育の充実や、郷土愛への意識向上（2）
- ・発表の機会の確保など、地域での文化活動の活性化（2）
- ・指導者の育成

5 富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なこと

- ・県民が富山の価値を再認識し、その良さを県内外に発信（7）
- ・メディアや著名人、情報通信ツールなどを活用した情報発信（6）
- ・県外や海外での伝統芸能の公演や紹介、県内文化団体の県外での発表（2）
- ・県内での特徴的な美術展・文化展の開催
- ・富山の文化の魅力を発掘し、積極的かつ効果的に発信
- ・多様な文化資源に対する人々の認知を高め、文化に触れる機会の充実

6 地域にある文化の「宝もの」を評価し、地域づくりに生かし発信するために必要なこと

- ・県民による再認識・再評価、ブラッシュアップ（8）
- ・県外・海外の方による「宝もの」の評価・発見（2）
- ・メディアなどを活用した情報発信（2）
- ・「宝もの」を創造・継承している方々の活動を支援する体制の整備
- ・文化的ポテンシャルを活かした取組みと戦略的な情報発信によるブランド形成
- ・地域住民が情報発信の必要性・発信方法を習得
- ・「宝もの」の活用をコーディネートする人材の育成・確保

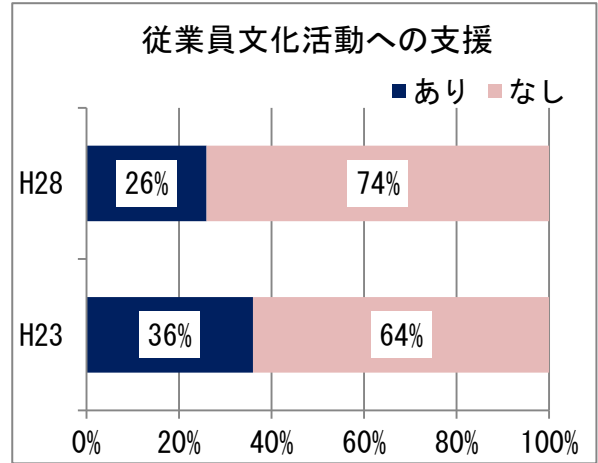
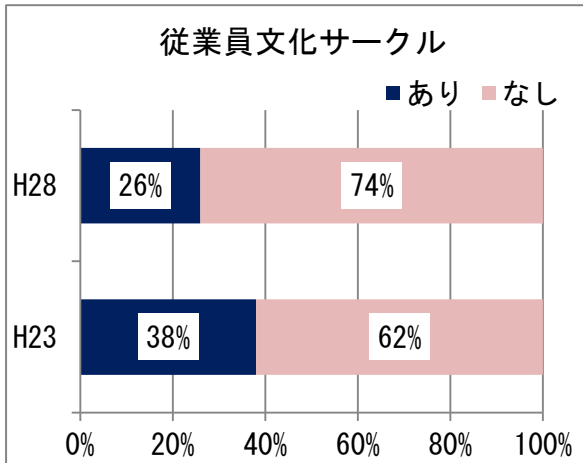
7 文化創造活動の向上を図るために必要なこと

- ・基盤整備や鑑賞・発表機会の確保など文化創造活動に取り組む環境の整備（6）
- ・指導者や後継者・担い手、コーディネーターなど人材の育成・確保（4）
- ・住民が地域の魅力に気付き、誇りを持ち、文化創造につなげる
- ・住民や企業、団体、地域、行政が連携し、地域の文化力を活かして新たな価値や魅力を創出
- ・文化の担い手を増やし、裾野を広げるとともに、若者の活動を行政がサポート
- ・文化団体の活動支援と自主的活動の促進
- ・関係者や関係団体間の連携強化

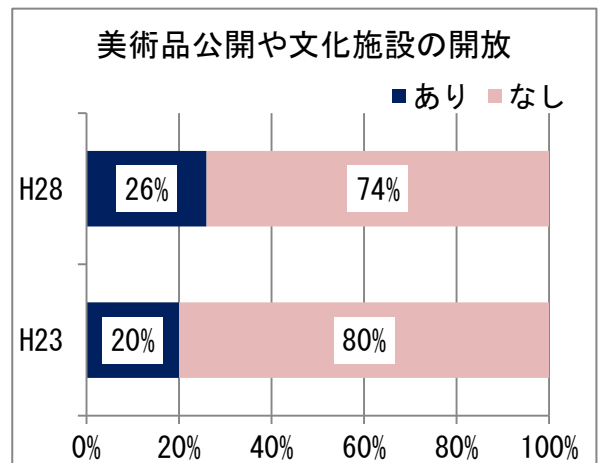
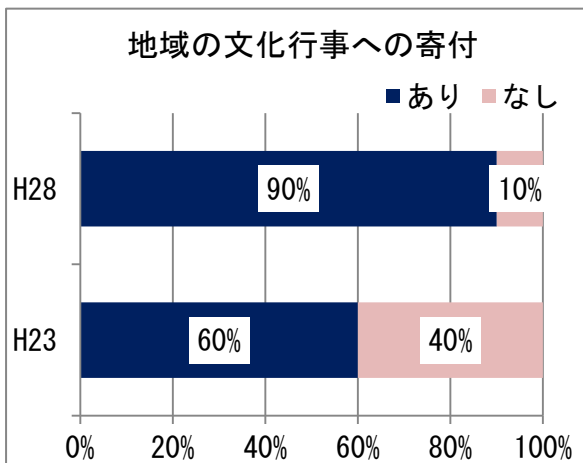
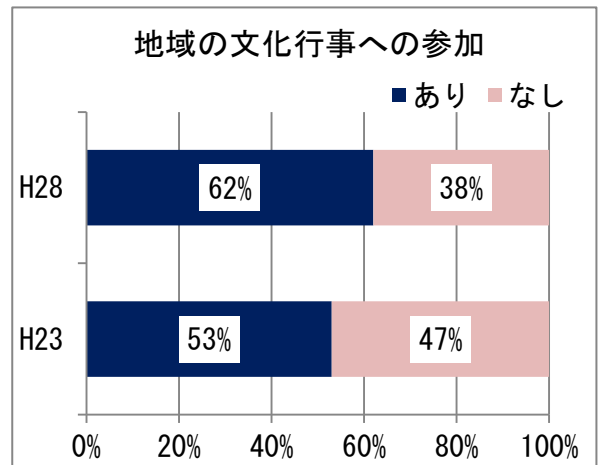
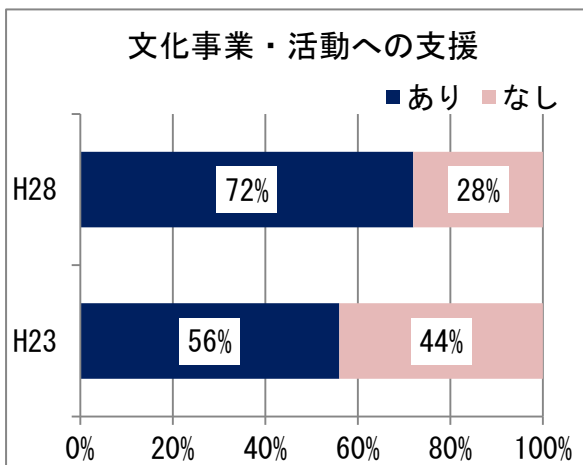
企業による文化支援等に関するアンケート

対象企業 106社
 回答企業 39社（回収率：36.8%）
 調査年月 平成28年8月

1 社内（事業所内）における文化活動



2 文化行事、文化活動への支援



3-1 文化事業や文化活動を支援した理由（回答数31社）

（多かった意見）

- ・地域・地元の活性化への貢献や、地域・地元との共生（24）

（その他の意見）

- ・会社のPRや認知度向上
- ・従業員の出身校や取引先等からの依頼など人的つながり
- ・芸術文化の振興
- ・社会貢献

3-2 文化活動の支援を行ううえでの課題（回答数19社）

（多かった意見）

- ・予算の捻出など資金面での課題（7）
- ・参加人員の確保など人的面での課題（5）

（その他の意見）

- ・寄付が慢性化し、集金にだけ来る
- ・企業が無尽蔵に対応できるものではないので、支援企業の数を増やし、広く薄く長く支援する仕組みを考えていく必要がある
- ・寄付ではなくプログラムへの広告料として支援する必要がある
- ・妥当性、公平性について内容の検証が必要

4-1 文化活動の支援を行うための条件（回答数28社）

（多かった意見）

- ・地域性、公共性、公平性（10）
- ・広く一般に周知され、従業員等も含めて多くの人に参加できる行事・事業であること（8）

（その他の意見）

- ・予算、費用対効果
- ・対象の行事・活動と会社事業との関係性
- ・会社の業績
- ・株主の理解
- ・社会貢献、会社の認知度向上の観点に合致しているか
- ・行事・事業の広告に会社名が入っているなど、協賛の分かりやすい表示
- ・行事・事業が収入源を税金・寄付に限定せず、独自の収入を確保できる仕組み
- ・協賛する場合の税制面での優遇措置の拡大
- ・企業側自身のCSRに対する取組み姿勢

4-2 今後も支援したいと思うか（回答数34社）

（多かった意見）

- ・できる限り支援したい。継続して支援したい（25）
- ・行事の内容等を考慮して、その都度判断（7）

（その他の意見）

- ・会社の業績による
- ・一定の条件を設けて選別したうえで支援

4-3 どのような支援が可能か（回答数30社）

（多かった意見）

- ・ 寄付など資金的支援（16）
- ・ ボランティア派遣や従業員の参加など人的支援（12）
- ・ 協賛広告等（7）
- ・ 展示スペースなど場所の提供（6）

（その他の意見）

- ・ 製品・商品の提供

5 県の文化振興施策への意見や要望（回答数4社）

- ・ 会社ホールの活用
- ・ 特定の企業に協力を要請するのではなく、地道に、多くの地域の企業が参加する土壌づくり
- ・ 富山県美術館への期待と、近代美術館跡地の活用が地元の文化振興に役立つものとなること
- ・ 文化振興施策の内容が不明